

H29 阿賀野市立安田中学校 グランドデザイン

新潟県学校教育の重点より

【地域の特色を生かし、地域とともに歩む学校づくり】

＜学校教育の重点事項＞

- 1 学ぶ意欲を高め、確かな学力を育成する教育の推進
- 2 豊かな心などをはぐくむ教育の推進(道徳教育の充実)
- 3 いじめを見逃さない、いじめを許さない意識の醸成
(「いじめ見逃しゼロスクール」の推進)
- 4 健康でたくましい心身をはぐくむ教育の充実
- 5 一人一人の教育的ニーズに応える特別支援教育の推進
- 6 郷土愛を軸としたキャリア教育の推進

＜努力事項より＞

- ・人権教育、同和教育、グローバル人材育成・環境教育
- ・防災教育、教育の情報化、図書館教育、健康教育、食育

高め合い、行動力のある職員集団

学力向上部

- 学力分析と課題把握
(NRT、Web配信テスト等の各種調査)
- 言語活動の充実(コミュニケーション活動)
- 少人数指導○朝学習の実施
- 家庭学習定着に向けた終学活の活用(YSTADY)
- 学習会(長期休業中)○定期テストの学習支援
- 継続的な家庭学習調査と啓発活動

体育

＜成果目標＞

- ①自分の健康と朝食の取り方を関連付けて考えられる生徒の割合いを50%以上にする。
- ②平日のメディア1日2時間以内にする生徒の割合を70%以上にする。
- ③個々に昨年度の体力テストの結果を受け、今年度各種目の数値の向上を目指す。また、体力テストを学期に一度取り組み、数値の向上を目指す。

＜教育活動＞

- ①朝食振り返り週間を年2回実施し、結果を活用した指導を行う。
- ②メディア時間を意識する日(学期1回)、生活振り返り週間を年2回実施し、結果を活用した指導を行う。
- ③保健体育の授業で、週1回以上総合的な体力向上のためのトレーニングを実施する。

＜運営活動＞

- ①朝食の取り方を実行するには家庭の協力も必要なので、調査結果を学年たよりに記載し啓発する。
- 生活習慣の改善は、家庭との連携が必要不可欠であることから、担当から出された結果を学年で分析し、学年たよりや学年PTA等で啓発する。
- 体力テストの結果を受け、体力向上のための研修を部活動の合同トレーニング形式で実施する。

教育目標【生活】

けじめをつけて生活出来る生徒

教育目標【学習】

すすんで学習に取り組む生徒

知育

＜成果目標＞

- ① Web診断テストで県平均正答率90%以上の正答率になる回が年間で70%以上になる。また、県平均以上になる回が20%以上になる。
- ② 家庭学習時間を継続的にきちんと取り組む生徒の割合が、年間80%以上になる。(学校生活向上委員会の日常活動を集計して評価の対象とする)

＜教育活動＞

- ・ Web配信問題の過去問題を朝学習時に実施し、その解説を各教科の授業で行う。
- ・ 学年部が主体となりサポート問題、前々年度問題を配付し、家庭学習課題として取り組む。

＜運営活動＞

- ① 各職員がWeb配信問題の結果を分析し、それをもとに自分の教科の授業改善のための研修に取り組む。
 - ・ 月末と月初めに、全校一斉にサポート問題、前年度、前々年度問題の準備と配付、指導を行い終了後は点検を行う。
- ② 年3回の小中連携家庭学習強調週間を設定し、家庭学習時間調査をもとにした生徒と保護者へ、中学校区便り、学校便り等で啓発の取組を行う。

学校・生徒の実態

- 学習への意識が高まりつつあるが、基礎的な内容にねばり強く取り組む必要がある。
- 生徒の中に学校をよりよくしようとする気運が高まりつつあるが、人間関係の希薄さやコミュニケーション能力の不足が感じられる。

保護者等の願い

- 他者とのかわりの中で、自らを高められる生徒に育てほしい。

目指す学校の姿

- 生徒一人一人が、自他のよさや成長を実感できる学校
- 生徒たちが自校に誇りをもてる学校

目指す生徒の姿

- 互いの存在に関心をもち、共に高めようとする生徒
- 自分自身を厳しく見つめ、見通しと向上心をもって行動できる生徒
- 社会の一員として自覚をもち、他との信頼関係を築けるよう行動する生徒

特別活動部

- 全校統一の学級活動○互いに高め合う集団づくり
(自己・相互評価の機会の充実)
- 複数担任制を活用したきめ細かな指導(中1ギャップ解消)

保護者や地域等と連携し、次世代を担う

阿賀野市教育の重点より

【児童・生徒一人一人の学びを保障し、思考力・判断力・表現力を高める授業改善を行う】

＜小・中学校教育の努力事項＞

- 1 保護者・地域の人々と課題を共有し、連携協力して学校づくりに取り組む。
- 2 児童・生徒の学習上の課題を把握し、中学校区で連携した取り組みを推進して学力の向上を図る。
- 3 取組の点検・改善を進めて校内指導体制を充実し、児童・生徒の心に寄り添う生徒指導を行う。
- 4 保護者や地域の人々と連携して取り組み、生命尊重や思いやりの心、規範意識を育む。
- 5 生活習慣改善の学習や適切な運動経験を通して、たくましく生きる体力の向上を図る。
- 6 支援教育の校内体制を整え、一人一人の教育的ニーズに基づく適切な指導と支援を行う。
- 7 地域・社会との連携を図り、教育活動全体を通じたキャリア教育の積極的な推進に努める。

＜小・中学校の配慮事項より＞

- ・道徳教育・人権教育、同和教育、国際理解教育、図書館教育、中1ギャップの解消
- ・防災教育・環境教育、情報教育、食育の充実

- 進路指導(学ぶ意義と目的を考える学習の充実)
- 薬物乱用防止・性教育
- 家庭への適切な情報

【生徒に育みたい力】(社会性と学力)

- ・自己肯定感・自己有用感
- ・自ら考え、自ら学ぶ力(学力の向上)
- ・豊かな人権感覚

心の教育部

- 人権や人間関係づくりの学習の充実(強調月間6月・11月)
- 教育相談の充実(5月・9月)
- 「社会貢献の意欲の向上」や「自己の生き方について深く考える機会」の充実

徳育

＜成果目標＞

以下の質問項目について、肯定的評価(4件法でA,B)の生徒の割合がそれぞれ下記の数値を超える。

- ①自分の仕事に責任をもって取り組むことができた。(A...4割 AとB...8割)
 - ②自分の仕事がほかの人の役に立っていると感じる。(A...4割 AとB...8割)
 - ③自分とは異なる考えや行動をする人がいても、それを個性と受け止め、差別や偏見をもたずに接している。(A...4割 AとB...8割)
 - ④進んで学級・少人数の話し合いに参加している。(A...6割 AとB...8割)
- 自分とは異なる考えや行動をする人がいても、それを個性と受け止め、差別や偏見をもたずに接している。(A...4割 AとB...8割)
- 進んで学級・グループの話し合いに参加している。(A...6割 AとB...9割)

＜教育活動＞

- ①行事後や学期末に全校で統一の話し合い活動をし、学級目標に向けた自己の活動を振り返る。(成果項目①②④と連動)
- ②各学年の道徳授業に「生きるIV」を年間計画に設定し、人権尊重に対する意識を高める。(成果項目①②③と連動)

- ③班活動・係活動を積極的に取り組ませる

＜運営活動＞

- ①話し合い活動を効果的に実施するために、FTやSGE、SSTの研修や、係活動に関する研修を行う。
- ②人権教育、同和教育ならびに「特別の教科 道徳」に関する職員研修を行う。
- ③隔週の活動優先日の活用や生徒への指導助言を適切に行う。

教育目標【心情】

思いやりのある心豊かな生徒